

令和 6 年度平塚工科高等学校 第 3 回学校運営協議会

会議録

日付: 令和7年3月 12 日(水) 15:00-16:00

司会: 教頭

記録: 藤原(広報企画 G)

出席者: 石田会長、棟居委員、室谷委員、坂本委員、井上委員、西村委員、
中津川副校長、佐藤教頭、木村総括教諭、篠原総括教諭、長井総括教諭、高木教諭、鈴木総括教諭、秋澤総括教諭、藤原教諭

1. 開会挨拶

会長挨拶

昨年初めて全国工業高校校長会に参加した。どこの校長先生も情報収集して頑張っている。神奈川県工業校長会と横の連携をとり、工業高校を良くしていこうとしている。この場での議論も貢献できればいいと思う。

副校長挨拶

11月修学旅行で沖縄に行きました。2年はインフルエンザが流行っている中、何回か病院に搬送され、引率は大変だった

神奈川工業高校産業フェアの内容は良かったが客は少なかった。

234名の卒業生の朗らかな顔でいい卒業式だった。

平塚工科は238名の募集定員で190名が合格定員に達していないため、昨日2次募集が行われもう少しで入試が終わる。

在校生は学年末の試験が終わり、これから成績会議が行われ、年度末に向かって進んでいく。学校評価については忌憚ない意見をお願いします。

2. 学校運営協議会

(1) 第2回協議会後の教育活動報告と次年度に向けた課題

*木村総括教諭(学事): 生徒による授業評価は肯定的な意見が80%以上良好だったと考えられる。次年度は高評価となるように継続して取り組む。AIなどの話題もあるので活用していきたい。

*篠原総括教諭(生徒支援): 定期的な校内外の指導は行っていて、昨年よりは生徒指導の件数は下がっている。相変わらず自転車の乗り方の苦情が増えている。とくにアンダーパスの通行苦情が多い。とくに長期休業明けと定期テストの1週間前が多い。支援体制としては随

時保護者への周知をしている。スクールカウンセラーの利用が保護者でも2件あった。

＊長井総括教諭(教科外):部活動の加入率は2月5日で約50%。イラスト模型同好会は最優秀賞を獲得。運動部も地道に楽しく活動している。委員会活動では図書委員会と放送委員会が毎日活動している。文化祭では保健委員、図書委員会が出展。

＊高木教諭(進路):卒業生の進路状況は内定率97%。まだ4名きまっていないがそのうち2名はまずは卒業を目指しあとは自己開拓する予定。また、障害者手帳を持っている生徒が2名いた。1名は聴覚障害で先月に障害者枠で内定。もう1名は視覚障害で何回か受けたが難しく障害者枠の実習で頑張る予定。7、8年ぶりにトヨタへの内定があった。進学は全体の生徒数が少ないが大学進路希望が25名、専門学校進路希望が22名。

＊鈴木総括教諭(総合技術):インターンシップに8社22名が参加した。ある会社からは取り組み具合にクレームがあったので面談など実施して、働くことの意味を今後考えさせる。環境化学系が神奈川工科大学を訪問した。関東電気保安協会からの出張授業を行った。

＊秋澤総括教諭(総務G):文化祭に自衛隊に来てもらい、炊き出しを行い200食以上を配布。今後のPTAのあり方について考えている。ここ数年未加入の保護者が増えている。「サポート」という名称などで組織替えをする方針。

＊藤原教諭(広報企画):学校案内パンフレットを刷新した。昨年度まで年4回の学校説明会などを3回に整理した。とくに例年夏が猛暑日が続く中で体育館で説明会は危険であり、内容的にはHPなどで代替可能。一方で工業高校の特色である実習やその設備の見学への需要が多いのでそちらを重点化する予定。また、今後は3年生が「課題研究」を中学校に行って発表することも企画できると良い。

＊教頭:月1度の職員会議で不祥事防止・働き方改革を職員が主体で実施する。研修プログラムに沿って事故防止に努めている。オフィス改善はコクヨに協力してもらって職員の意見を吸い上げ、デスク本棚の入れ替えを先日計画で確定。来年度の夏を目処に引っ越し文化祭頃には完了する予定。

(2)協議

石田会長:校内評価において数値を出すが良い。「80%が達成できている」というのはいい。アンケートには記述欄があるとのことだったので、全部でなくてよいが大事な課題が見えてくるものもある。紹介してもらえるとありがたい。

木村総括教諭:準備ができていなかった。次年度に向けて準備する。

井上委員:部活動についていろいろな課外活動で多くの社会に触れる機会を考えてもらえると

いい。社会性を身に着けている人を求めている。SC の活用も増えていくことを期待している。入社してくる人にも同様の課題が増加している。

室谷委員：ショッピングセンターの影響は？

篠原総括教諭：当初心配していた駐車駐輪にからむ苦情はない。ただ交通量は増えたのでその点では注意が必要。

坂本委員：中学1年生に向けて SDG'S や、会社の説明をしてきた。8社ほどが集まってデザインの具体的なものを持っていくと興味をもたれた。実は私は浜竹中学校出身で工業高校は何をやっているかわからなかった。具体的に見せると中学生は興味があるはず。

棟居委員：キャリアパスポートを活用することで小中高で学習する中で社会に出るまでに自分の強みを認識することが重要。小学生では難しいところもあるが記録だけ終わるのではなくて、将来に向けて自分を振り返るために活用できればよい。

室屋委員：内定率97%という話があったが分母は？

高木教諭：約140名。1社目の合格率が8割で年内にきまる。年を超す生徒はほとんどいない。

西村委員：今日もなでしこ小学校6年生対象に授業を行った。防災活動を通じて高校生にも地域との繋がりができれば良いと思う。令和7年度平塚市3エリア津波避難訓練をおこなったが、来年度もなでしこ地区が対象なので何かと関わってもらえると助かる。参加者が高齢化・固定化してきている。エネルギーがある高校生に関わってもらえるとありがたい。

石田会長：スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーについて「保護者に相談できることを周知する」とあり大切だと思った。一方で保護者からの難しい要望があると思うがどういった対応の工夫があるのか。

篠原総括教諭：紙ではなかなか保護者まで届かないので、メールやインターネットをつかって働きかけている。

3. 学校評価部会

(1) 校内評価報告 …2(1)で済

(2) 学校関係者評価

6 意見交換

副校長：事故防止について、昨年度は会計の不正、修学旅行のしおりの紛失があった。なにか意見があれば

坂本委員：企業の環境マネジメントなどについての経験では、「法律遵守はしているか？」と問えば「している」と答えるが、しかし具体的に答えられない。法律のこの部分が対象なんですと説明している。「働き方改革」でも法文は難しく抽象的なので具体的にどこ部分が当たったのかを4月に洗い出してチェックしている。そうでないと法律なのか マナーなのかも曖昧になってしまう。「パワハラ」「セクハラ」についても具体的にないがそれに当たるのかがわからなかったが、具体的にやったらわかると思う。

長井総括教諭:本校の生徒は消極的な子が多い。JC セタから始まる地域貢献などの提案や、津波避難訓練の話があったが、勢いどうしても生徒会役員に荷重になり、無理にやれば積極的でない生徒を当てることなり、逆効果になるという難しさがある。

藤原教諭:「働きか改革」のはなしもでたが、学校は残業代がない関係もあってか、「やったほうがいい」ということでプラスの提案はあっても、無駄だからやめようという提案がしにくく、結局多忙化が進み、本当にやるべき創造的な仕事もやりにくくなるという悪循環を感じている。経営者の立場から何か工夫なり経験などがあれば聞きたい。

坂本委員:在宅勤務を利用して極端にフレックスを進めている。デザイナーが一人でがやる 仕事があり、営業もやることが決まっている。先生の場合は働き過ぎをやめろと言わないとやってしまうだろう。

井上委員:情報化の影響で次から次へと新しい情報が入ってきて、それに対応しなければならぬ。週2回は早く帰ろうという取り組みもしているが正直いって形骸化している。

副校長:学校運営協議会は来年度もメンバーを変えずに委嘱したい。役職など変わることがあればご連絡を。

以上